

### 4 街路樹に発生する害虫類の被害状況

県下の街路樹にはサクラ、プラタナス、ケヤキ、ユリノキ、イチヨウ、コブシ（タムシバ）など、数多い樹種が使われている。近年、これら街路樹に毎年発生している害虫3種を取り上げ被害の状況を解説し、昨年行ったユリノキヒゲナガアブラムシの防除試験の結果を紹介して、街路樹の害虫防除対策の一助としたい。

#### 内 容

(1) チャドクガ *Euproctis pseudoconspersa*

チョウ目ドクガ科の昆虫。本州以南の日本各地に分布し、年2回発生し、卵で越冬する。加害樹種はツバキ、サザンカ、チャで、若齢幼虫は葉の裏に群生しており、被害の初発が分かりにくく、食害された葉が広範囲に白く透けてきて気がつくことが多い。また、代表的な毒ガである。卵塊、幼虫、まゆ、成虫とも毒針毛を持っており、特に幼虫の背面には50万本もの微細な毒針毛が群生している。毒針毛が皮膚に触れたり、刺さったりすると皮膚炎を発症し、激しい痒みに悩まされる。耕種的な防除対策として、剪定を適正に行い、風通しを良くして産卵を少なくする。卵塊を見つけたら切除して殺すのも有効である。防除薬剤としては樹木類のチャドクガに対してトレボン乳剤4,000倍の登録がある。

(2) プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata*

カメムシ目グンバイムシ科の昆虫。2001年確認された侵入害虫で名前が示すとおりプラタナス（ス

ズカケノキ科）を主に加害するが、他にクルミ科、ブナ科、クワ科、カエデ科、モクセイ科などの広範な樹木に寄生する。年3世代繰り返し、プラタナスなどの樹皮下で成虫越冬する。

成虫、幼虫ともに葉裏に寄生して吸汁する。吸汁により葉の表面に脱色斑が現れ、寄生が多いと葉が白化～黄白化する。多発した場合には樹全体の葉が白化し、葉裏は黒い粘着質状の排泄物による汚れが加わり、美観が著しく損なわれる。防除薬剤としては樹木類のグンバイムシ類に対してスミチオン乳剤1,000倍の登録がある。

(3) ユリノキヒゲナガアブラムシ *Illinoia liliodendri*

ヨコバイ亜目アブラムシ科の昆虫。海外からの侵入害虫でユリノキに寄生する。普通樹高の高いユリノキに寄生しているこのアブラムシの被害を気にかける必要は少ないが、公園内に植栽されることが多い樹なので、ユリノキの木陰に停車中の車が樹上のアブラムシの甘露でべたべたになった被害が報告されている。参考までに表に2007年に実施した樹幹打ち込み剤であるオルトランカプセルの防除効果を紹介する。処理5日後には防除効果が現れ、以降、21日間発生を抑制し、高い防除効果が認められた。現在はまだ未登録であり使用はできないが、登録されると有力な防除方法である。

山下 賢一（企画調整・産学官連携部）

（前 農業技セ・病害虫防除部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

表 オルトランカプセルによるユリノキヒゲナガアブラムシの防除効果

供試薬剤	処理方法	反復	幹周囲長 (cm)	打込数 (個)	調査葉1葉当たりの寄生虫数															
					7月20日(処理直前)				7月25日(5日後)				8月2日(13日後)				8月10日(21日後)			
					有翅	無翅	仔虫	計	有翅	無翅	仔虫	計	有翅	無翅	仔虫	計	有翅	無翅	仔虫	計
オルトランカプセル アセフェート 97%	幹周囲 10cmごと に1個 樹 幹打ち込 み	I	125	11	0	1.5	7.1	8.7	0	0.1	0.4	0.5	0	0	0	0	0	0	0	
		II	58	6	0	12.4	18.6	31.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		III	77	7	0.1	3.1	9.2	12.4	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	
		平均	86.7	8.0				17.3				0.2					0			
		補正密度指数						100				1					0			
無処理	-	I	121	-	0.1	6.4	11.9	18.5	0	6.3	11.8	18.1	0	10.2	15.4	25.5	0	19.4	10.5	29.9
		II	81	-	0.1	2.4	10.8	13.3	0	2.1	6.5	8.6	0	4.3	9.6	13.9	0	1.0	0.19	1.2
		III	65	-	0	3.6	6.6	10.2	0	4.8	9.4	14.2	0	6.2	4.9	11.1	0	0.2	0	0.2
		平均	89.0	-				14.0				13.6				16.8				10.4
		補正密度指数						100				100				100				100